

「立教科目」の申請から学んだこと

堺 茂樹

1. はじめに

『「立教科目」－建学の精神から学ぶ科目展開－』が2005（平成17年）度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に採択されました。

採択までの過程では、第1次審査として申請書作成、第2次審査としてヒアリング準備に関わり、全学共通カリキュラム運営センター及び全学共通カリキュラム事務局をはじめ多くの関係者のご協力がありました。ここであらためて感謝の意を申し上げます。

また、採択後、全学共通カリキュラム運営センターは、文部科学省GPフォーラムへの積極的な参加、ポスターやリーフレット等を使い、「立教科目」の特色やねらいなどを広く情報提供を行うなど、精力的に活動されており、採択効果が非常に高いものと実感しています。これぞ外部資金獲得の醍醐味の一つといえるでしょう。

2. 外部資金獲得ならびに研究推進をするリサーチ・イニシアティブセンターの紹介

まず、私が所属するリサーチ・イニシアティブセンターにつきまして、設立の経緯をはじめ、目的、目標、目指す職員像、業務領域についてご紹介します。

2-1. センターの設立経緯

リサーチ・イニシアティブセンターは、①研究等に関する外部資金の積極的な導入、②研究活動の円滑な進行、③研究の高度化を推進するための基盤整備をはかるため、研究支援・助成を担う総務部研究助成課と大学全体の補助金業務を担う財務部財務・補助金課が合併して、2004年10月に発足しました。

2006年3月現在、廣江彰センター長（経済学部教授）をはじめ、専任職員6名、派遣職員7名の合計14名の体制です。

2-2. センターの目的

リサーチ・イニシアティブセンターの目的は、立教大学における研究活動の質的・量的発展をはかることで、わが国及び世界における学術研究の高度化

に寄与するとともに、その成果を学内教育や社会に還元するために必要となるさまざまな支援活動を行うことです。

2-3. センターの目標

リサーチ・イニシアティブセンターの目標は、①日常的な研究付帯業務を簡素化して事務処理を迅速に行う体制づくりを行う、②外部研究資金や研究機会の情報収集と情報提供とを十分にいき、教員による研究活動がさらに活性化するための支援を研究構想の段階から成果発表に至るまでを対象に行う、③研究活動に不可欠な研究資金、特に大型のプロジェクト型外部研究資金の獲得に向けた戦略的な活動を行えるような学内態勢づくりを実現することの3点です。

2-4. 目指す人材像

リサーチ・イニシアティブセンターが最も重視しているのは、本学の研究活動が質・量の両面で活性化するための「人材創り」とその人材が活動しやすい「組織創り」という点です。

上記の目的・目標に基づく日常業務実行は当然として、リサーチ・イニシアティブセンターがさらに目指すことは、①研究活動にかかわる研究それ自体と研究環境の双方で情報を収集・分析・評価するセンスを持ち、②それらの情報から研究を支援する戦略を構築し、③その戦略を研究支援組織において迅速に意思決定することができる、

という人材が育つモデル組織創りです。

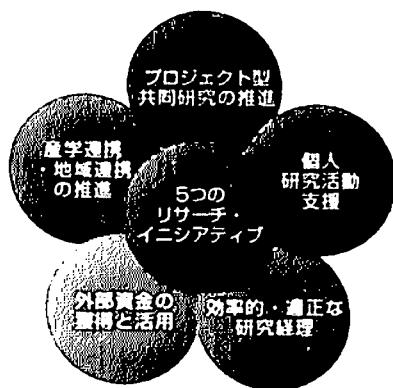
2-5. 業務領域

次に、リサーチ・イニシアティブセンターの業務領域を紹介します。

A. プロジェクト型共同研究のプロデュース

学部・研究科・研究所や学問領域の枠を超えた学内リソースの融合を進め、社会ニーズに応えるプロジェクト型共同研究のプロデュースとマネジメント支援を戦略的にを行います。

また、これらの実現に向けて学内研究助成制度を総合的に整備・活用します。

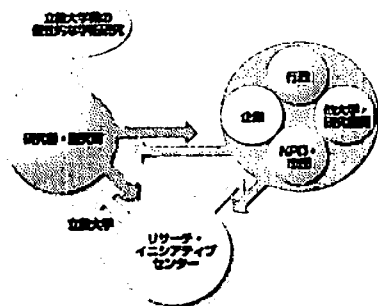


B. 地域・企業・他大学との連携を通じた研究活動の推進

研究外部資金に関する政策動向を把握しながら、研究者情報の公開やイベント、講演会等の開催を通して、行政・NPO・企業・他大学との交流を進めます。

また、それら学外のリソースとの連携により、個性的なプロジェクト型研究活動を積極的に推進・支援し、「知識基盤社会」づくりに貢献します。

「知識基盤社会」づくりへの貢献



C. 研究外部資金・補助金の獲得推進、研究活動サポート

研究外部資金・補助金、各種研究助成金の申請支援、執行・実績報告事務等のプログラム管理を行います。立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）等、学内研究助成制度を運営しています。

3. 文部科学省の競争的資金の展開

学外には、国や自治体、企業、財団など研究活動を推進するスポンサーは数多くあります。今回はその中で、特色GPを取り扱う文部科学省に焦点を当て、「競争的資金の経緯」を振り返ってみたいと思います。

文部科学省は、2002年度の「21世紀COEプログラム」に端を発し、2003

年度には、「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」、2004年度には、「現代的ニーズ教育プログラム（現代GP）」、「法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム」、「大学教育の国際化推進プログラム」、2005年度には、「魅力ある大学院イニシアティブ（大学院GP）」、「資質の高い教員養成推進プログラム（教員養成GP）」、「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人養成推進プログラム」と特に「教育」に軸をおいた多彩なプログラムを展開してきています。

文部科学省は、当初、学士課程を対象にプログラムを展開していましたが、段階的に対象を広げ、現在では、学士課程、修士課程、博士課程に応じたプログラムが設定されています。

4. 2005年度本学における文部科学省競争的資金等外部資金の採択実績

リサーチ・イニシアティブセンターが発足して初めての申請となった2005年度の「競争的資金」の採択結果を图表のとおりです。採択件数は5件、金額4億9,000万円と本学の研究教育活動の推進に大きく貢献できる結果となりました。

なお、特色GPをはじめとした各プロジェクトの活動内容等詳細情報は、リサーチ・イニシアティブセンターのホームページをご参照ください。

競争的資金名	プログラム名	学部研究科名	支援期間	補助金額 (平成17年度)
特色ある大学教育支援プログラム (特色GP)	立教科目	全学共通カリキュラム	4年	15,500千円
現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)	理数教育連携を通じたCBLSプログラム	理学部	3年	9,996千円
魅力ある大学院イニシアティブ(大学院GP)	持続可能な未来へのリサーチワークショップ	異文化コミュニケーション	2年	22,007千円
派遣型高度人材育成協同プラン	CSRインターンシップ・プログラム	21世紀社会デザイン	5年	8,500千円
オープンリサーチ・センター整備事業	21世紀社会における「アミューズメント」の理論化と応用に関する研究	観光 コミュニケーション 現代心理	5年	434,388千円

(図表) 本学における2005年度文部科学省競争的資金等獲得一覧
(http://www.rikkyo.ne.jp/grp/crj/project/index_2.htm)

5. 特色GP「立教科目」の申請から学んだこと - 申請の重要なポイント -

◆特色GP申請の重要なポイント

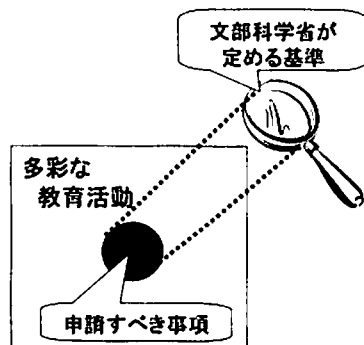
特色GP申請の重要なポイントとして、2つあげることができます。

一つは、教育内容の充実度です。

具体的には、1) 教育の目標を明確にすること、2) 優れた教育効果をあげるための創意工夫を施し、学生の人的成長を促す内容であること、3) 組織的に実施すること、4) 教育効果を測定する方法を定め、評価・フィードバックする仕組みがあること、5) 今後の展望を有していることなどがあげられます。

もう一つは、文部科学省が要求する基準で申請書を作り上げることです。

このことを例えていうならば、多彩な教育活動を紙の上のせ、その上から文部科学省が定める基準である「虫眼鏡」を置き、光を当てると、焦点化される部分ができる。この焦点化した部分が、申請書に記入すべき事項であるというイメージです。



申請書に記入すべき事項の整理が終わると、文部科学省が指定する申請書に従って、わかりやすく表現すること

が求められます。

このことは、言葉で説明するととても簡単にも思えますが、実際の申請実務では関係者との調整などはかなりハードな仕事です。

◆「立教科目」の経験

「立教科目」もその例外ではありませんでした。申請書の作成ではかなり困難な調整を経験することになりました。なぜなら、「立教科目」は、「専門性に立つ教養人の育成」という本学の学士課程の教育目的のもと、カリキュラム運営組織「全カリ運営センター」を有し、豊富で多様な科目を展開するなど多彩な教育活動を行っていたからです。

つまり、イメージ図でいうところの「多彩な教育活動」がたくさん存在していたのです。もちろん、この多彩な教育活動を申請書に全て盛り込んでも、採択には至りません。なぜなら、文部科学省が定める基準に合った表現をしていないからです。

リサーチ・イニシアティブセンターと全学共通カリキュラム運営センターとの間で打ち合わせを重ねながら、申請すべき項目を整理し、最終的に文部科学省へ提出する申請書として完成したのが、本号に掲載されている「申請書」となります。

この経験から、今後、申請プロジェクトの発足時には、「申請部局のこれまでの豊富な教育活動の中から、文部

科学省が求める基準に沿って、合致する部分を抜き出し、申請書に落とし込むことになること」をメンバー間で十分に共有することがその後の申請実務を円滑に進める上で不可欠なことであることを学びました。つまり、目的を明確にしておくことです。

6. 最後に－「立教科目」への期待－

本学は、建学の精神に「キリスト教の精神に基づく人格の陶冶」を掲げ、知育・徳育をとともに重視した教養・専門双方の課程において実践的教育に取り組んできています。こと「立教科目」は、「建学の精神」が問いかける「人間としての基本的なあり方」を、現代社会における諸課題に即して考え、学び、あるいは行動へと誘う科目群です。

このような教育を受けた学生が、どのような学習プロセスで学士号を取得したか、どのようなキャリアを選択したかなどケースとして蓄積し、後に続く後輩たちの学習プロセス並びにキャリア形成に役立つ仕組みを構築されることを期待します。

なぜなら、その先には、現代的・社会的課題に対して自主的に取り組むことのできる学生の姿があるからです。

さかい しげき

(本学職員 リサーチ・イニシアティブセンター)